

# 心の原風景 —我が母校—

## 佐渡市立金井吉井小学校

平成24年度に創立51年を迎えた金井吉井小学校は、かつて皇太子殿下(昭和天皇)が来校された「行啓校吉井」としてその名が知られています。教育目標「よく考え 進んでやりぬく 元気な子ども」の具現を目指し、保護者や地域の方々から協力をいただきながら教育活動を進めてきました。

### 豊かな自然を生かした体験活動

地域の方々のご協力により、毎年、5年生児童が学校田での田植え体験や草取り、稲刈り・脱穀などの体験活動をさせてもらってきました。田植えや稲刈りをする児童は、体験活動を通して、地域の方の思いや地域の自然に触れ、地域の良さを再確認する事ができました。

冬季には、地域のスキー場での「スキー教室」を学年部毎に全児童が行ってきました。ボランティアでスキー指導をしてくださる保護者や地域の



ワンダーバレーでのスキー教室

方々の支えがあり、児童は冬の自然を満喫する事もできました。その他にも、ブルーベリー農園での体験活動や学校田での環境調査など数多くの体験活動を行ってきました。

### 保護者・地域と連携した

### 読書活動の推進

当校の児童は読書が大好きです。読書に対する保護者・地域からのサポートも厚く、図書室の整備活動を目的とした「図書館ボランティア」や「読み聞かせボランティア」の方が児童の読書活動を支えてくださっていました。7月には、保護者ボランティアの方々の紹介で、全国「おはなしキャラバン隊」を招き、楽しい読み聞かせや移動図書館の本に親しむ事もできました。

その他にも、このほり大運動会、文化祭での子ども鬼太鼓など地域の方とともに創り上げる活動が数多くありました。



おはなしキャラバン隊

当校は平成24年度末をもって長い歴史に幕を閉じましたが、新生金井小学校となっても、これまで地域とともに歩んできたよさを継承し、発展させていきます。

### ◆教育委員会学校教育課

(両津支所内) ☎23-4898



# 世界遺産登録に向けて

## 佐渡金銀山絵巻をひもとく(16) 小判所

焼金を水と湯でよく洗い、塩気を抜いたものを採金といい、これを焼き固めたものを寄金といいます。粒の粗い「荒」を寄金にしたものを「薄金」、細かい「微塵」を寄金にしたものを「好金」といい、純金に近いものになります。これらを、「延金」という小判製造の工程に移します。

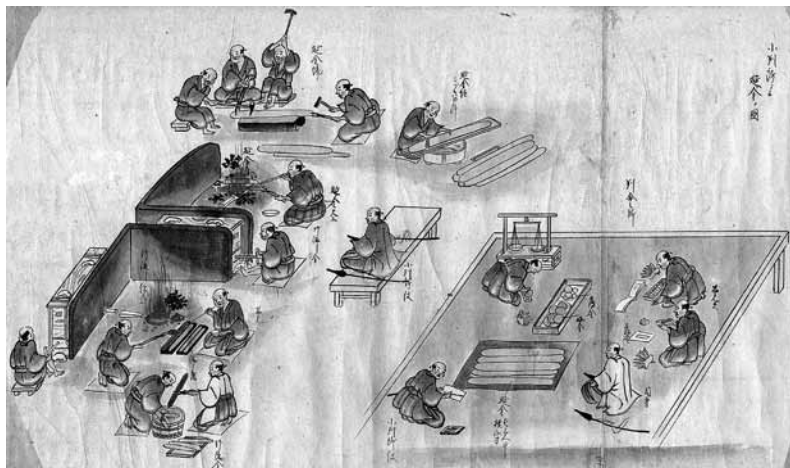
塩を洗い出した溜まり水には微量の金銀が混じっているので、再度金銀を得る工程にまわされます。

「延金」では、「好金」と「薄金」に銀を一定の割合で混ぜて溶かし、土製の鑄型に流し込みます。この鑄型の台を「竹流し台」、そこで出来た合金を「竹流し金」といいます。

これを、水洗いしてから延金床で加熱し、延金場で長さ90cm・幅6cm、厚さ1.6mmに叩いて伸ばし、小判の地金にします。

小判の地金を金銀の合金にするのは、純金では軟らかすぎて、変形したり傷ついたりするためです。

◆市役所世界遺産推進課(金井就業改善センター内) ☎63-5136



### 小判所の様子

竹流し金(左下)を延金床で加熱し延金にしている所(左上)、延金を塩で磨いている所(中央上)などがわかる。